Inter Professional Education Research Center

文部科学省　国立大学改革強化促進補助金

千葉大学大学院看護学研究科附属
専門職連携教育研究センター

平成 27 年度　事業報告書

平成 28（2016）年 3 月

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

目次

Ⅰ．ごあいさつ 2

Ⅱ．専門職連携教育研究センターについて 2

Ⅲ．平成 26 年度の取り組みと成果 8

Ⅳ．センターの取り組みと成果（平成 27 年年度） 10

1. 教育 11

1）亥鼻 IPE の発展・進化 11

2）新たな IPE プログラムの開発 12

3）FD の充実 14

2. 実践・社会貢献 15

1）IPE 研究拠点からの発信 15

2）IPW の促進 16

3）政策提言 16

3. 研究 17

1）研究プロジェクトの組織化、研究の推進 17

4. 組織運営 19

1）予算と人材の確保 19

2）PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）に基づく組織運営 19

3）IPERC の将来構想 19

Ⅴ．外部評価委員会開催と外部評価委員による講評 20

1. 平成 27 年度外部評価委員会の開催 20

2. 外部評価委員による講評 21

3. 外部評価委員の講評について 24

Ⅵ．資料 25

（資料１）IPERC 事業目標 25

（資料２）学習のまとめ（別冊） 26

（資料３）亥鼻 IPE 数値実績 26

（資料４）平成 27 年度 試行事業報告 クリニカル IPE（小児科病棟・ICU 病棟） 27

（資料５）地域貢献事業実績 32

（資料６）地域志向教育研究経費事業点検・評価書 35

（資料７）プロジェクト研究共同研究員募集要項 36

（資料８）平成 27 年度研究業績 38

Ⅰ．ごあいさつ

看護学研究科附属専門職連携教育研究センター(以下 IPERC)は、国立大学改革強化推進補助金「次世代対応型医療人育成と治療学創生のための亥鼻キャンパス高機能化構想」に大きく貢献するセンターとして、2015 年 1 月 1 日に開設されました。

「次世代対応型医療人育成と治療学創生のための亥鼻キャンパス高機能化構想」は、平成 25 年度(平成 26 年度繰越整備)から開始された、亥鼻キャンパスが一体となって行う平成 30 年度までの事業です。平成 25 年度には、亥鼻キャンパス教育研究基盤の整備を達成目標とし、治療学拠点形成のための教育研究基盤整備を行いました。平成 26 年度には未来医療教育研究機構の設置、教員・スタッフ採用を達成目標として、未来医療教育研究機構の設置に関する規程等の整備、専属教授、専属オフィサー等の配置、亥鼻キャンパス改革・機能強化構想の推進機構による取組の発信（シンポジウム等）を行いました。平成 27 年度の達成目標は未来医療教育研究機構のガバナンス発揮、教員・スタッフの充実であり、それに向けて、亥鼻キャンパス改革・機能強化構想の推進、人事・給与システムの弾力化（年俸制等）の亥鼻キャンパスへの一層の拡大を行ってきました。

IPERC とその前身である亥鼻 IPE 推進委員会および医学部看護学部薬学部の亥鼻 IPE 担当教員ワーキンググループは、平成 25 年にはテレビ会議システムの導入、平成 26 年には IPERC の開設、特任教員の配置、国際シンポジウムの開催と、平成 27 年度の体制充実に向けた基盤整備を予定通り順調に展開してきました。

そして平成 27 年度には、この報告書に記載されている非常に多くのそして重要な事業展開を、行いました。そして、IPERC 設置後初めての、外部評価委員会を開催し、この 14 か月にわたしたち IPERC の教職員が、目的を共有し協力し合って成し遂げてきた成果を、有識者の方々に評価いただく貴重な機会を得ました。いただいたご意見をもとに、今後の事業企画をよりよいものにしていく所存です。

次年度、平成 28 年度は、未来医療教育研究機構のガバナンス拡大を達成目標に、亥鼻キャンパス改革・機能強化構想の推進、事業内容の中間点検、機構による取組の評価・発信、人事・給与システムの弾力化、平成 29 年度、30 年度には、未来医療教育研究機構のガバナンス定着が目標として掲げられております。IPERC は上記の目標の達成のために、PDCA サイクルにより事業展開を行い、亥鼻高機能化構想の実現に貢献しうるセンターを目指しています。本報告書が、その一助になることを祈念しております。

また、本報告書は IPERC 初の発行物であり、そのため、平成 27 年度だけでなく、平成 26 年度 1 月から 3 月の事業報告も掲載しております。

最後に、平成 27 年度の IPERC 事業および亥鼻 IPE にご協力をいただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月 22 日

センター長　酒井郁子

Ⅱ．専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 年 1 月からセンター長及び特任教員で原案を作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 年 2 月 23 日、平成 27 年度第 1 回運営委員会で決定した。

１．理念、ビジョン、ミッション

１）理念（社会における存在意義、信条）

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

２）ビジョン（目指すべき姿、未来像）

「IPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部（医学・薬学・看護学）の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

３）ミッション（果たすべき使命、社会的役割）

（１）教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

（２）実践（社会貢献）

IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）を担う人材育成（現任者対象のIPE）について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括したIPWを促進する。また、IPE研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPEやIPWを推進する政策提言を行う。

（３）研究

IPEに関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻IPEの評価研究を実施し、効果的なIPEプログラムの理論化・体系化を行う。また、IPWに関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効なIPW人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

（４）組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）による運営体制を構築する。

２．組織

当センターは、看護学研究科の研究・教育施設として位置づけられている。センター職員は、特任教員と 3 学部から兼務教員である。下記に組織図および各会の名簿を示した。

センター教員は「教育実践研究部会」を年２回開催し、研究および教育・実践として、下記の活動を行っている。

研究として

- IPE の評価研究、理論化、データ蓄積
- IPW の理論化、実証研究、橋渡し研究
- IPE（学部・大学院）及び IPW プログラムの開発・普及
- FD/SD プログラムの開発および効果検証

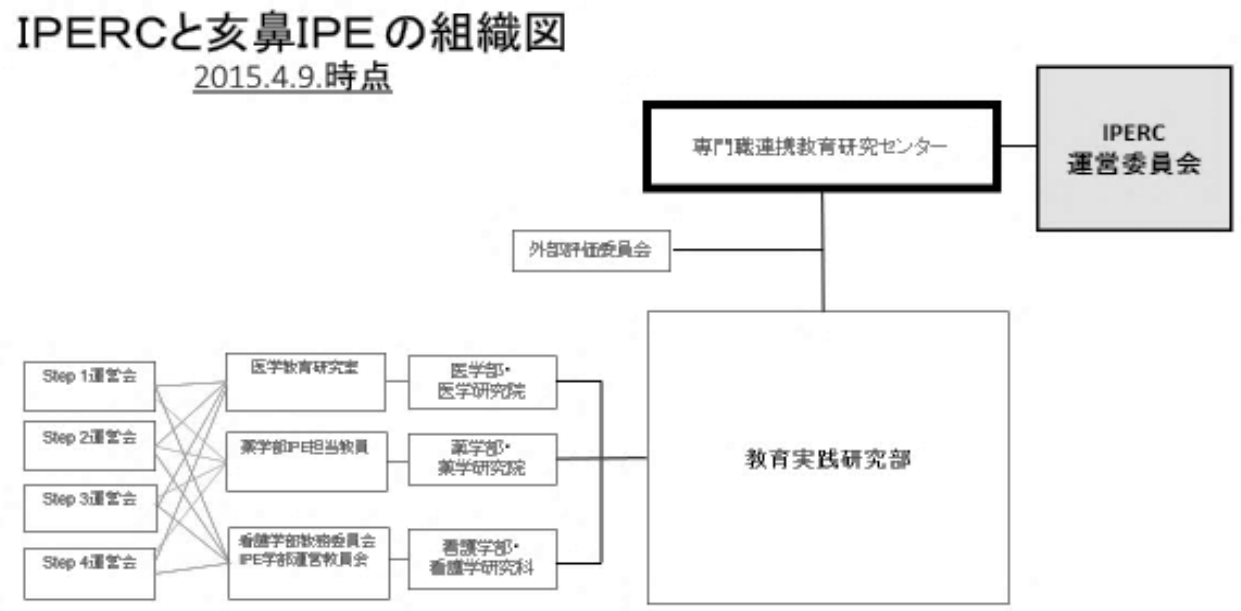
教育・実践として

- 3 学部等のメンバーによる IPE の実施に伴う準備・調整・体制づくり・評価
- 現場等とのネットワークづくり

また、「教育実践研究部会」は、センター教員が部会員であり、3 学部と連携し亥鼻 IPE の科目運営を行っている。

センターの運営については、センター長、センター教員の他、3 学部の教務委員長および附属病院に委員を依頼し、定期開催している。また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言をえている。センターの事務所管は、看護学部事務部センター事業支援係が担当することとなった。

亥鼻 IPE は、看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員と連携して行っている。



平成 26・27 年度センター職員名簿

センター長

・酒井郁子　（看護学研究科　教授）

特任教員

・大塚　眞理子（看護学研究科　特任教授）

・藤沼　康樹（看護学研究科　特任講師）

・山田　響子（看護学研究科　特任助教）

・宮古　紀宏（看護学研究科　特任講師）（平成 27 年 8 月退職）

兼務教員

・朝比奈真由美（医学部附属病院　講師）

・伊藤　　彰一（医学研究院　講師）

・関根　　祐子（薬学研究院　教授）

・大久保　正人（薬学研究院　助教）

・眞嶋　　朋子（看護学研究科　教授）

・池崎　　澄江（看護学研究科　准教授）

・黒河内　仙奈（看護学研究科　助教）

事務補佐

・小畠恵里佳（平成 27 年 8 月より）

・高野佳奈（平成 27 年 10 月より）

・吉岡智子（平成 27 年 10 月より）

平成 26・27 年度センター運営委員名簿

・磯野　史朗（附属病院　副病院長）

・石井伊都子（附属病院　薬剤部長）

・田澤　敦代（附属病院　副看護部長）

・相馬　孝博（附属病院　医療安全管理部長（平成 27 年 10 月より）

・織田　成人（医学部　教育委員長）（平成 27 年 4 月より）

・村山　俊彦（薬学部　教務委員長）（平成 27 年 4 月より）

・坂上　明子（看護学部　副教務委員長）（平成 27 年 4 月より）

・センター教員

平成 27 年度センター外部評価委員名簿

・川島　啓二（九州大学基幹教育院 教授）

・田邊　政裕（千葉県立保健医療大学　学長）

・渡邊　秀臣（群馬大学医学部保健学科　多職種連携研修センター長）

・富田　薫　（千葉市保健福祉局地域包括推進課　課長）

・永田由美子（模擬患者会）

３．専門職連携教育研究センター規程

センターの規定は、平成 26 年 10 月に千葉大学理事会で決定した。

（趣旨）

第１条 この規程は，千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（目的）

第２条 センターは，専門職連携教育及び連携実践を発展・進化させるための基盤体制を組織的に位置付け，我が国及びアジア圏の専門職連携教育実践の研究、教育の推進拠点として機能することを目的とする。

（組織）

第３条 センターに，次の研究部を置く。

一 教育実践研究部

二 その他、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）が必要と認めた研究部

（職員）

第４条 センターに，次の職員を置く。

一 センター長

二 センター兼務の教授、准教授、講師及び助教

三 その他の職員

（センター長）

第５条 センター長は，看護学研究科長が指名する。

２ センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，センター長が任期満了前に辞任し，又は欠員となった場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

３ センター長は，センターの業務を総括する。

（運営委員会）

第６条 センターに，センターの円滑な運営を図るため，運営委員会を置く。

第７条 運営委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一 センターの運営に関する事項

二 その他運営委員会が必要と認めた事項

第８条 運営委員会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 センター長

二 医学部、薬学部及び看護学部の教務担当委員長

三 その他センター長が必要と認めた者

第９条 運営委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。

２ 委員長は，運営委員会を招集し，その議長となる。

３ 委員長に事故あるときは，委員長があらかじめ指名する委員が，その職務を代行する。

第１０条 運営委員会は，委員の３分の２以上の出席がなければ，議事を開き，議決することができない。

２ 運営委員会の議事は，出席委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

第１１条 委員長は，必要と認めるときは，委員以外の者を委員会に出席させることができる。

（外部評価委員会）

第１２条 センターにおいて外部評価を実施するため，外部評価委員会を置く。

２ 外部評価委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（事務）

第１３条 センターの事務は，看護学部事務部において処理する。

（雑則）

第１４条 この規程に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は，看護学研究科教授会の議を経て別に定める。

附 則

１ この規程は，平成２７年１月１日から施行する。

２ 最初に指名されるセンター長の任期は，第５条第２項の規定にかかわらず，平成２７年３月３１日までする。

Ⅲ．平成 26 年度の取り組みと成果

１．センター開設の準備

千葉大学は、平成 25 年度国立大学改革強化推進事業として『次世代対応型医療人育成と「治療学」創成のための亥鼻キャンパス高機能化構想』が採択された。

平成 26 年 6 月に千葉大学理事会で看護学研究科に専門職連携教育実践センターを設置することが決まり、その概要が決定した。亥鼻 IPE については平成 26 年度研究拠点形成等補助金（先進的医療イノベーション人材養成事業）である『未来医療研究人材養成拠点形成事業』の協力を得ることができた。

看護学研究科では、平成 26 年 4 月より山田響子特任助教が『未来医療研究人材養成拠点形成事業』の補助金により着任し、亥鼻 IPE の運営を開始した。平成 26 年 10 月より大塚眞理子特任教授と藤沼康樹特任講師が、平成 27 年 1 月から宮古紀宏特任講師が、『次世代対応型医療人育成と「治療学」創成のための亥鼻キャンパス高機能化構想』の補助金で着任し、亥鼻福利厚生施設 2 階にセンター準備室が開設した。

センター準備室では、亥鼻 IPE の運営と共に、センター内什器や備品の整備、規定の整備、ロゴマークの投票、テレビ会議システム導入準備、開設記念国際シンポジウムの開催準備などを行った。

２．センター開設後３か月の活動と成果

本センターは平成 27 年 1 月 1 日に正式に開設し、酒井郁子センター長、宮古紀宏特任講師が着任した。平成 26 年度の主な取り組みは「開設記念国際シンポジウムの開催」「国際交流、海外視察等」「センター運営の基盤整備」の 3 つであった。

１）開設記念国際シンポジウムの開催

平成 27 年 3 月 16 日（月）、三井ガーデンホテル千葉において、本センター開設記念シンポジウムを開催した。

徳久学長挨拶、酒井センター長による「本センターの成り立ちとミッション」に引き続き、「本センターの展望」と題したシンポジウムを行った。

・宮崎美砂子（看護学研究科長）　「専門職連携教育研究センターへの期待」
・山本　修一（附属病院院長）　「附属病院がセンターに期待すること」
・大塚眞理子（センター特任教授）「日本の卒前教育における IPE の経緯と展望」
・藤沼　康樹（センター特任講師）「Multimorbidity の時代における Continuing Interprofessiona Education 実践研究の展望」
・渡邊　秀臣（群馬大学大学院保健学研究科長）「群馬大学 WHO Collaborating Centre の取組と IPE 研究センターへの期待」

ランチ交流会を行い、午後は海外からの招聘講師による基調講演であった。

・Helea Low（英国 CAIPE）「Commemorative symposium for the Opening of Interprofessinal Education Research Centre」
・Elizabeth Anderson（レスター大学教授）「IPE in Leicester and Research Questions

当日の参加者は 142 名であり、アンケートでは約 7 割の方々が満足してくださり、情報発信など

のセンターへの期待が記されていた。

2）国際交流、海外視察等

（1） 韓国・光州保健大学からの視察受け入れ

平成 27 年 5 年 1 月 22 日、韓国・光州保健大学校から、**呉君錫** 病院情報管理部教授を代表として 5 名の方が、センターの視察に訪れた。光州保健大学は、看護学科を含め 19 学科を有する医療専門職の養成校であり、韓国ではこれから IPE を開始しようとしていた。亥鼻 IPE の詳しい説明、教育風景や大学病院のシュミレーションセンターの見学が役に立ったとのことであった。

（2） アメリカ合衆国・National Center for Interprofessional Practice Education 視察

平成 27 年 1 月 14 日から 16 日、山田響子特任助教が、アメリカ合衆国 National Center for Interprofessional Practice Education（国立専門職連携実践・教育センター）を訪問した。センターはミネソタ州ミネアポリス市のミネソタ大学内に本部を置き、アメリカ合衆国の IPE/IPW を牽引する存在として、政府、地域、並びにアメリカ全土の研究者・実践者と連携し、多様な IPE プログラムの開発・実施と研究を進めている。滞在中は、国立センターのディレクターや教育部門・研究部門の責任者とのディスカッション、学部横断的に学生が運営するクリニックの見学、亥鼻 IPE の紹介プレゼンテーション等を行い、開設直後の IPERC の展望に関する多くの助言や示唆を頂いた。

（3） ドイツ・Skills Symposium への参加

平成 27 年 3 月 13 日から 14 日、宮古紀宏特任講師が、ライプチヒ大学で開催された Skill Lab Symposium に参加した。シンポジウムではシミュレーション教育の研究者が先進的な取り組みやその成果を発表しており、シミュレーション教育を取り入れている亥鼻 IPE Step4 を中心に、IPERC の教育事業に活用できる知見を収集した。

3）センター運営

看護学研究科教授会で、センター運営委員及び教育実践研究部会員が決定したのでそれぞれ第 1 回の会を開催した。

・平成 27 年 2 月 17 日　平成 26 年度第 1 回教育実践研究部会開催

・平成 27 年 2 月 24 日　平成 26 年度第 1 回運営委員会開催

これらの会議では、センターの理念・ミッション・ビジョンを決定した。

また、センター内什器や備品の整備、テレビ会議システムの設置を行うことができた。

Ⅳ．センターの取り組みと成果（平成 27 年年度）

センターの理念・ミッション・ビジョンを基づき 5 年間の長期目標と 3 年間の中期目標を設定し、さらに短期目標として平成 27 年度の目標を設定した。（資料 1：25 頁）

センターの目標は、センターの 3 本柱の活動に合わせて、「1．教育」「2．実践」「3．研究」とし、「4．運営」を加えた。11 頁より、4 つの項目ごとに長期目標・中期目標を見出しとして、平成 27 年度の事業の概要と成果を述べる。

1. 教育

1）亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の Step1・2・3・4 は、3 学部で運営責任学部を分担し 3 学部の教員とセンター教員が協力して運営を行っている。Step1 は看護学部、Step2 は薬学部、Step3 は毎年持ち回りで平成 27 年度は医学部、Step4 は医学部である。以下、平成 27 年度の短期目標ごとにその実績を述べる。Step1・2・3・4 の科目内容及び実績の詳細は「学習のまとめ」（資料 2：別冊）および実績表（資料 3：26 頁）を参照ください。

（1）亥鼻 IPE の改定、安定的実施

①ファシリテーターの導入

亥鼻 IPE では、従来から Step 1 の振り返りに学内の教員によるファシリテーターを配置していた。平成 26 年度の Step3 で学外の保健医療福祉職をファシリテーターとして導入する試みを行った。その成果を踏まえ、平成 27 年度は Step2 と 3 の初回にファシリテーターを導入し、ファシリテーターの役割の明確化と共に研修会を開催した。Step1, 2, 3 に下記とおりファシリテーターを導入した。

【Step1】平成 27 年 7 月 1 日（水）学内教員 21 名
役割：実習のふりかえりグループワークの促進

【Step2】平成 27 年 5 月 28 日（木）39 名（学内教員 14 名、外部 25 名）
役割：初日のチームづくりの促進

【Step3】平成 27 年 12 月 22 日（火）48 名（学内教員 16 名、外部 32 名）
役割：初日のチームづくりとグループワークの促進

②ターム制の検討

千葉大学は平成 28 年度から全学でターム制（2 か月を 1 タームとして年間 6 ターム）を導入することとなった。平成 28 年度 3 学部時間割に Step1～4 を優先的に確保し、現在の運営方法を平成 28 年度版に移行することができた。さらに平成 29 年度以降にむけ、各学部の教務委員会または教育委員会で検討を続けている。

③テレビ会議システムの活用の検討

平成 26 年度に配置したテレビ会議室システムは、当センターと、看護学部の講義室 2 か所、医学部の講義室 2 か所、薬学部のセミナー室を結んでいる。平成 27 年度は、Step 1 と Step 3 で、テレビ会議システムを用いて講義配信を行った。

【Step1】
平成 27 年 7 月 15 日（授業最終日）、IPERC と発表会会場の 4 教室（医学部第 2 講義室、看護学部第 1 講義室、第 2 講義室、講義・実習室）繋ぎ、センター長からの総括コメントを中継した。

【Step3】
平成 27 年 12 月 24 日、オリエンテーションと講義を IPERC から 6 つの教室（医学部第 1 講義室、第 2 講義室、第 3 講義室、看護学部第 1 講義室、第 2 講義室、講義・実習室）に配信した。

④アンケート等をもとにした次年度の科目の精錬

授業評価アンケートや教員アンケートをもとに、これまでの教育プログラムの課題を集約し、次年度の「亥鼻 IPE」プログラムを検討した。各 Step の授業評価アンケート、教員アンケート、FT からのアンケート結果を総合的に検討し、次年度のプログラム変更について検討を行った。

【Step1】

平成 27 年 8 月 11 日（火）検討会議開催。来年度大きな内容改変は無しとした。教員と学生との効果的なインタラクションを目指し、教室毎のグループ数と教員数を検討し直す方向。

【Step2】

平成 27 年 8 月 11 日（火）検討会議開催。来年度は発表会準備の授業日数を 1 回減らし、全 6 回とする。

【Step3】

平成 28 年 1 月 21 日（木）検討会議開催。来年度は主により多様な職種を交えた事例の改善と、初日の視聴教材の使用目的・指示の明確化について検討を行う。

【Step4】

平成 27 年 10 月 16 日（金）検討会議開催。来年度は事例毎に退院計画に盛り込むべき内容や、立案の際に考慮が必要だったポイントを示し、学生自身が自分たちの退院計画を評価できるよう促す。また、コンサルテーションを活用できるようにリハ職への理解を深める課題を取り入れる。

（2）クリニカル IPE 試行事業

将来に向けて臨床の場で実践的な IPE 科目を開発するために、今年度はクリニカル IPE の試行を大学病院で実施した。平成 27 年 7 月に附属病院の小児病棟および ICU にて各 3 日間、クリニカル（診療参加型）IPE を試行した。医学部 5 年生のクリニカル・クラークシップの実習に合わせ、希望者を募ったところ、4 グループ 11 名（医学部 5 年生 4 名、薬学部 5 年生 3 名、看護学部 4 年生 4 名）の参加があった。

学生からも附属病院の職員からも評価が得られ、来年度も試行事業として実施する予定である。（資料 4：27 頁）

2）新たな IPE プログラムの開発

（1）海外交流の検討

①学生の短期留学先の探索

亥鼻 IPE は英国のレスター大学をモデルとして発展してきた経緯がある。

平成 27 年 3 月 11 日（金）に開催した国際セミナーで基調講演のため来日したレスター大学のアンダーソン氏に学生短期留学および単位互換制度の意向を伝えたところ、今後検討していくこととなった。平成 27 年度中に訪英が実現しなかったが、今後、次年度のプログラム日程および内容に関する資料の入手、協定締結に関する協議、学生派遣時の宿泊場所や必要経費についての情報収集など、協議を進めることになっている。これらを遂行するためのコンタクトパーソンの確認等が必要となっている。

②マヒドン大学での IPE 学生短期留学の探索

千葉大学では、全学企画でマヒドン大学への短期留学制度がシステム化している。平成 27 年 4 月、全学のツイン型学生派遣プログラム「ツインクル」担当者とマヒドン大学への学生派遣について協議した。その結果、ツインクルの参加要件を満たす場合、ツインクルプログラムからの経済補助を受けて学生の派遣が可能であること。および派遣先のマヒドン大学において本学の IPE プログラムを紹介することや、現地の病院訪問等が可能であることを確認した。今後、このような情報を学生に提供し、学生への認知度を高めていく。

（2）千葉県内の大学間連携

①千葉県内薬学系大学のコンソーシアム

千葉県内の薬学系大学でコンソーシアムを組んでおり、本学薬学部も参加している。このコンソーシアム協定校のうち、城西国際大学薬学部の学生が亥鼻 IPE に参加している。平成 27 年度は、6 年生 1 名が Step4、4 年生 3 名が Step 3 に参加した。これらの学生は、コンソーシアムで作成した IPE の e-learning で事前学習を行っている。

②千葉県内の他大学との連携

今後の千葉県内大学間連携を見据えて、千葉県立保健医療大学から学生および教員の参加依頼があった。Step3 にリハビリテーション学科（作業療法学専攻）4 年生 5 名、3 年生 8 名、栄養学科 4 年生 3 名の参加があった。なお、両学科の教員 4 名がファシリテーターとして参加した。Step3 で本学学生からは 3 学部と異なる職種の理解が促進されたと評価があった。次年度も引き続き実施する予定である。

（3）大学院 IPE プログラム

災害看護学の IPE

本学看護学研究科には、災害看護グルーバルリーダー養成プログラムがある。これは高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、日本赤十字看護大学と共同した 5 年一貫の博士課程「共同災害看護学専攻」である。この専攻で開講している「専門職連携実践論」及び「災害時専門職連携演習（災害 IP 演習）」の 2 科目について、酒井センター長が科目責任者として担当し、当センター教員が協力している。

5 月 26 日に「専門職連携実践論」で大塚特任教授が機関間連携について講義を行った。

2 月 15･16・17 日に開講される「災害時専門職連携演習」に大塚特任教授、藤沼特任講師、山田特任助教が協力参加した。

（4）他大学との連携

当センターの開設以来、他大学及び大学院から IPE への協力要請が多数寄せられた。保健医療福祉系の大学が新たに IPE に取り組むための FD 講師や、大学院の特別講義等の要請がありこれに対応した。この取り組みは、当センターの教育事業であるとともに実践（地域貢献）事業でもある。資料 5：32 頁に実績としてまとめた。

３）FD の充実

（１）亥鼻 IPE ファシリテーター養成プログラムの実施

亥鼻 IPE の Step1～3 には多くの教職員が関わっている。そのため各 Step で実習担当者説明会および SD を実施した。さらに平成 27 年度はファシリテーターを外部からも導入したのでファシリテーター研修を実施した。

以下、次のように略語を使用する。

FD…教員対象の研修

SD…附属病院職員対象の研修

FT 研修…主に外部からの参加希望者を対象としたファシリテーター養成研修

（教員や附属病院職員も参加しているため、FD/SD を兼ねる）

【Step1】FD　6 月 17 日（水）　10 名出席

【Step2】実習担当者説明会（FD/SD を兼ねる）5 月 28 日　28 名出席

FT 研修（FD/SD を兼ねる）5 月 12・13・21・22 日　延べ 43 名出席

【Step3】FD12 月 10・11・15 日で 3 回実施し延べ 61 名出席

【Step4】FD/SD　9 月 1 日（火）　24 名出席

医学部教員を対象とした説明会 4 月 16・17 日 延べ 22 名出席

外部からの FT を導入した Step2 と Step3 では、それぞれ FT マニュアルを作成し、研修および実際の指導に役立てた。

（２）亥鼻 IPE の安定的な FT 確保のルール作り

平成 27 年度は、3 学部の学生、年間約 1000 名の授業運営を、延べ 37 名の教職員が担当した。3 学部の教員以外にも附属病院の専門職や外部の専門職が関わっている。これらの学内教員、大学病院スタッフの安定的な確保のために亥鼻 IPE への参加ルール作りを行った。

看護学部では、全教員が亥鼻 IPE の教育体験ができるように、教務委員会が教員配置を行っている。薬学部でも全助教が担当するよう教員配置を行っている。今年度は新たに医学部が組織的な教員配置を行うことができた。具体的には、Step１～４で延べ 70 コマ分、医学部並びに附属病院医師が亥鼻 IPE に参加した。実際の参加日と人数は、以下のとおりである。

【Step1】計 11 名（7 月 1 日 7 名、7 月 15 日 4 名）

【Step2】計 5 名　（7 月 9 日）

【Step3】計 11 名（12 月 24 日）

【Step4】計 18 名（9 月 17 日 6 名、18 日 3 名、29 日 6 名、30 日 3 名）

平成 27 年度亥鼻 IPE 担当教員

医 学 部：朝比奈真由美、伊藤彰一、伊丹謙太郎

看護学部：酒井郁子、坂上明子、池崎澄江、岡田忍、赤沼智子、今村恵美子、
岡村実佳、黒河内仙奈、佐藤奈保、田中裕二、辻村真由子、永田亜希子、
中山登志子、野崎章子、眞嶋朋子、舘祥平、

薬 学 部：関根祐子、大久保正人、青木重樹、佐竹尚子、佐藤洋美、関根秀一、高橋由佳、
堂浦智裕、原田慎吾、原田真至、藤吉正哉、溝口貴正、山口憲孝、吉本尚子、

センター：大塚眞理子、藤沼康樹、山田響子、宮古紀宏（平成 27 年 8 月退職）

2. 実践・社会貢献

１）IPE 研究拠点からの発信

（1）IPE の FT やコンサルテーション、広報活動

①ホームページの充実

平成 27 年 4 月に専門職連携教育研究センターFacebook ページを開設した。

平成 27 年 5 月に専用ホームページを開設し、コンテンツを「亥鼻 IPE」「教育・研修活動」「研究」「勉強会」に分類した。また、研究データベースの構築、海外への発信としており、平成 28 年 3 月には英語版ホームページの作成を予定している。

今後、Facebook ページ、ホームページでリサーチを目指す層に向けた情報発信および当センターとしてのメディア活用戦略を立て、発信する情報の選定、効果測定、担当者の明確化等を進める必要がある。

②問い合わせに応じた情報発信

ホームページの問い合わせへのアクセルや電話、メール等により当センターへの情報発信依頼があり、以下のように情報発信を行った。

他大学のＩＰＥへの協力

・他大学における講義（講師派遣）：6 件
・カリキュラムの相談：2 件
・亥鼻ＩＰＥ授業視察：6 件
・その他の相談：1 件

福祉系大学院への協力（講師派遣）：1 件

他機関への協力

・研修等の講義（講師派遣）：12 件
・その他の相談：1 件

千葉大学内への協力（講師派遣）：3 件

学会発表：2 件

コンサルテーション、学内外における講義、他機関への協力についてデータベースを作成した。（資料 5）ホームページとの連動についての可能性を検討中である。

２）IPW の促進

（１）大学病院の IPW 改善

「大学病院や総合病院、地域医療等の職員への研修プログラムを作成し実施する」という短期目標については、当センターの研究事業である【プロジェクト研究Ⅱ】（18 頁）を実施しており、研究事業と連動して進めている。

（２）千葉の地域包括ケアシステム構築

千葉市での地域活動

千葉県（千葉市）の地域連携の実際および、地域連携を担う専門職について情報収集を行うという短期目標に対し、千葉大学 知（地）の創生事業、地域志向教育研究経費として 36 万円を獲得し、地域貢献活動を行った。（資料 6：35 頁）

千葉市地域包括ケア推進課と連携し、東千葉地域の教育研究フィールド開拓を行った。平成 27 年 9 月にスタート講座を開催して「地域の和・輪・環の会」が立ち上がった。地域住民が主体となり、地域の推進テーマの検討および実施のための企画書作成ため 4 回の懇談会を実施し、2 月に成果報告を行う地域住民フォーラムを開催した。本事業の成果をもとに、平成 28 年度普遍科目地域コア「チームで取組む地域活動入門」を普遍科目看護学部担当科目として開講する。

なお、この活動の一部で、「A地域における住民主体の地域づくりを推進した要因」をテーマとする研究に取り組んだ。平成 27 年 9 月に千葉大学大学院倫理審査委員会の承認を得て、この地域の活動を中心になって行っているコアメンバーおよび周囲の保健医療福祉職へのインタビュー調査を行った。その成果の一部は、平成 28 年 7 月に韓国で開催される「第 3 回韓日地域看護学会合同学術集会で発表予定である。

３）政策提言

（１）制度化等要望書を作成、関係機関に提案

附属病院との連携

IPE/IPW に関連する関係団体等（各種学術学会、チーム医療推進協議会、厚生労働省、文部科学省等）との関係づくりを行うという短期目標を掲げ、附属病院医療安全管理部長・相馬教授と連動した活動を開始した。

3. 研究

１）研究プロジェクトの組織化、研究の推進

（1）亥鼻 IPE 卒業生追跡調査の継続と成果発表

亥鼻 IPE では、卒業生の追跡調査を継続して実施し、データを蓄積している。平成 27 年 11 月に看護学研究科倫理審査委員会で「医学部、看護学部、薬学部学生の専門職連携教育の長期学習効果の評価」の承認をうけ、平成 28 年 3 月に医学部・薬学部 6 年生と看護学部 4 年を対象に卒業時調査を行う予定である。

（2）亥鼻 IPE 教育評価研究の継続と成果発表

亥鼻 IPE では学生のレポートや教育評価をデータして蓄積している。平成 27 年 5 月に看護学研究科の研究倫理審査委員会に「医・薬・看協働の IPE プログラム Step1・2・3・4 の教育評価に関する研究」について審査申請を行い承認されたので、平成 27 年度についてもデータ収集を行った。

（3）IPE テキストの執筆・出版

亥鼻 IPE の教育研究の成果を基に、IPE のテキスト化を計画している。ミネルバ書房から IPE テキスト出版が可能となった。現在は出版社と構成、出版時期などについて検討を行っている。

（4）IPE プロジェクト研究の企画・運営、教員の海外派遣

当センターの研究事業としてプロジェクト研究を開始した。平成 27 年 5 月の運営委員会で、「平成 27 年度千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター　プロジェクト研究共同研究員募集要項」（資料 7：36 頁）の決定をうけ、IPE/IPW を研究テーマとして取り組もうとする大学内外の人材をセンターの研究員として公募した。今年度は 6 月に募集をかけ、8 月に研究員を決定し、9 月から平成 28 年 3 月までの 7 か月の研究期間であった。

①プロジェクト研究 I （IPE）

プロジェクト研究 I は、専門職連携教育をテーマとする 11 名の研究員で行った。第 1 回の研究会を 10 月に行い、各自の関心から「大学教育での IPE」と「生涯教育での IPE」の２つにグループ分けを行った。IPE に関する研究の問いを設定し、各自で自分の研究の問いに関する文献検討をすることとした。平成 27 年 2 月の第 2 回研究会では、各自の研究成果を報告しあい学習会となった。

「大学教育の IPE」のグループでは、管理栄養士や福祉職（社会福祉士、介護福祉士）の養成教育は医師や看護師、薬剤師等の医療職とは教育方法が異なるため、IPE 導入にあたって教育方法のすり合わせが必要となる。IPE を継続するには、大学等組織のメリットのなる資金と人材を集めることが必要である等が確認された。

「継続教育の IPE」では、リフレクションの重要性、アウトカムベースの教育方法とプロセス重視の教育のバランスの重要性、住民と専門職の連携の課題などが確認された。

②ファシリテーター研究

平成 27 年 5 月に看護学研究科の研究倫理審査委員会の承認を得て、Step2 と Step3 で外部から参加した FT を対象に「亥鼻 IPE ファシリテーターに必要なコンピテンシー及び研修方法の探索的研究」を行った。研究成果の一部は、第 21 回千葉看護学会学術集会で発表した。3 月に研究報告書を完成し関係者に配布予定である。

③教員の海外派遣

平成 27 年 9 月、IPERC 兼務教員である伊藤講師を、An International Association for Medical Education (AMEE) のため英国グラスゴーへ派遣した。

（5）IPW プロジェクト研究の企画・運営、現場改善

①プロジェクト研究Ⅱ（IPW）

特定機能病院の IPW をテーマにプロジェクト研究Ⅱの公募を行い、千葉大学医学部附属病院の 3 名をプロジェクト研究員として採用した。IPERC 教員、研究員 3 名、附属病院の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士により「せん妄に対する多職種チームアプローチの実装－外科病棟におけるせん妄ケアプログラムの実施および評価－」をテーマに研究を行う。平成 28 年 1 月に倫理審査の承認を得ており、今後、介入・分析・評価を実施する予定である。

（6）研究成果と論文化

昨年度、IPERC 教員が実施した、千葉大学医学部附属病院ならびに札幌医科大学附属病院で実施した専門職連携の実態調査研究の結果については、8 月の日本保健医療福祉連携教育学会、9 月の An International Association for Medical Education (AMEE) ほか 5 編の発表を行った。

平成 27 年 1 月から 12 月に IPERC のセンター長、兼務教員、特任教員の IPE/IPW に関する学会発表 11 件、著書 2 件、総説その他 4 件であった。センター開設前より 3 学部の教員たちによって IPE/IPW に関する研究が行われており、その研究成果発表は、平成 27 年度研究業績として整理した。（資料 8：38 頁）

（7）クリニカル IPE 試行事業に伴う教育研究

医学部兼務教員である朝比奈真由美講師を中心に、7 月に行ったクリニカル IPE に伴う教育研究を行った。7 月の看護学研究科倫理審査委員会で「クリニカル・クラークシップにおける IPE プログラム（クリニカル IPE プログラム）のパイロット・スタディの検討」という研究テーマで承認をうけ、学生や教職員へのインタビューを行っている。研究結果については、平成 28 年 6 月にスペインで開催される国際医学教育学会で発表予定である。

4. 組織運営

1）予算と人材の確保

（1）外部資金の恒常的な獲得

①国際交流事業助成金の獲得、②学長裁量経費（教育事業）の獲得、③科学研究費補助金の獲得、④民間研究助成金の獲得について、随時検討を行った。その結果、平成 27 年 6 月に千葉大学地域志向教育研究経費事業に 40 万円申請し、36 万円を獲得した。また、平成 27 年度千葉大学学長裁量経費に看護学部から申請を行い、250 万円を獲得した。

（2）リソースパーソンの組織化

教育事業の「亥鼻 IPE の安定的な FT 確保の組織化」と連動し、FT 参加者の名簿を作成した。亥鼻 IPE のリソースパーソンは、①Step4 の附属病院のコンサルタント、②ルーブリックによる学生のパフォーマンス評価を行う医学部及び附属病院の人材、③学生グループのファシリテーターとなる人材である。①は医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、リハ職等延べ 40 名が得られた。②は、上記「教育」FD の充実に記した。③は、亥鼻 IPE に関心をもつ他大学の教員と実践現場の専門職とし、必要とする Step の FD 受講を義務付け、外部 FT の募集を組織的に行った。リピーターと新規応募者を合わせて Step2 で 22 名、Step3 で 26 名を得た。

2）PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）に基づく組織運営

PDCA サイクルをもとに当センターの運営を行い、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正するという中期目標のもとに、①運営委員会の開催、②教育実践研究部会の開催、③亥鼻 IPE tep1～4 の各学部担当教員と連携して亥鼻 IPE を運営した。また、教員自身の学習研究のためにスタディグループによる学習会とジャーナルクラブの開催を継続してきた。特にジャーナルクラブは学内外に門戸を広げ、毎回学内外からの参加者があった。

平成 27 年度の実績は以下のようである。

【①IPERC 運営委員会】　平成 27 年 5 月 21 日、10 月 2 日

【②教育実践研究部会】　平成 27 年 5 月 15 日、11 月 17 日、平成 28 年 2 月 18 日

【③Step 運営会議】Step1・2…全 5 回（平成 27 年 4 月 14 日、5 月 1・21 日、6 月 19 日、8 月 11 日）

Step3…全 3 回（平成 27 年 10 月 16 日、11 月 19 日、平成 28 年 1 月 21 日）

Step4…全 3 回（平成 27 年 7 月 21 日、9 月 3 日、10 月 16 日）

【スタディグループ】第 1 金曜日　12:00～13:00　全 10 回

【ジャーナルクラブ】第 2・4 火曜日　17:00～18:00　全 21 回

3）IPERC の将来構想

当センターの将来構想については、外部評価委員会を設置し、年に一度外部評価を受けながらセンター運営を行う中で検討していくこととする。平成 27 年度は、①各短期目標の実現を目指して組織的な活動を行いその成果を明確にする、②センター紀要を発行する、を短期目標とした。平成 28 年 3 月 8 日に外部評価委員会を開催し、事業および業績報告を行い、最終的に事業報告書を作成することとした。

Ⅴ．外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

1. 平成 27 年度外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、平成 27 年度外部評価委員会を開催した。

日　時：平成 28 年 3 月 8 日（火）14 時から 16 時

場　所：千葉大学看護学部　大会議室（管理棟 2 階）

出席者：外部評価委員　5 名

川島　啓二　九州大学基幹教育院　教授

渡邊　秀臣　群馬大学大学院保健学研究科　教授

田邊　政裕　千葉県立保健医療大学　学長

富田　薫　　千葉市保健福祉局包括ケア推進課 課長

永田由美子　千葉大学医学部ＳＰ（模擬患者）会

センター運営委員会委員　13 名

酒井　郁子　専門職連携教育研究センター　センター長

織田　成人　大学院医学研究院教授

磯野　史朗　大学院医学研究院教授、医学部附属病院副病院長

田澤　敦代　医学部附属病院看護部副看護部長

伊藤　彰一　大学院医学研究院講師

関根　祐子　大学院薬学研究院教授

大久保正人　大学院薬学研究院助教

眞嶋　朋子　大学院看護学研究科教授

池崎　澄江　大学院看護学研究科准教授

黒河内仙奈　大学院看護学研究科助教

大塚眞理子　大学院看護学研究科特任教授

藤沼　康樹　大学院看護学研究科特任講師

山田　響子　大学院看護学研究科特任教授

内容・議事：

酒井センター長から開会の辞があり、宮﨑美砂子千葉大学大学院看護学研究科長から挨拶があった。外部評価委員長を田邊氏、副委員長を渡邊氏が互選され、委員長が議事進行を行った。

酒井センター長から専門職連携教育研究センターの概要について、大塚特任教授から平成 27 年度事業実施状況について説明があり、質疑応答・意見交換を行った。最後に 5 名の外部評価委員が講評を述べた。

2. 外部評価委員による講評

5名の外部評価委員には、平成27年度の実施項目について、「A：よくできた、B：ふつう、C：努力を要する」の評価基準で評価をいただいた。

下記の表は、評価項目ごとに、評価欄（A・B・C）に外部評価委員の人数を記入し、Aを3点、Bを2点、Cを1点として、評価項目ごとの平均値を算出したものである

次頁からは、外部評価委員からの既述コメント（原文まま）を掲載する。

実施内容に対する評価結果

	長期目標（～2019）	中期目標(2015～2017)	実施内容(2015)	評価 A(3点)	B(2点)	C(1点)	平均点
教育	1)亥鼻IPEの発展・進化	(1)亥鼻IPEの改定、安定的実施	①ファシリテーター導入	4	1		2.8
			②ターム制の検討	2	3		2.4
			③テレビ会議システムの活用を検討する。	2	3		2.4
			④アンケート等をもとに次年度の科目の精錬	2	2	1	2.2
		(2)クリニカルIPEの実施	クリニカルIPEの試行	5			3
	2)新たなIPEプログラムの開発	(1)海外との交流	①学生の短期留学先の探索	1	4		2.2
			②マヒドン大学でのIPE学生短期留学の探索	1	4		2.2
		(2)千葉県内の大学間連携	①千葉県内薬学系大学のコンソーシアム	1	4		2.2
			②千葉県内の他大学との連携	5			3
		(3)大学院IPEプログラム	災害看護学のIPE協力	3	2		2.6
		(4)他大学との連携	①他大学のIPEに協力(実践・社会貢献)	4	1		2.8
			②福祉系大学院のIPEに協力(実践・社会貢献)	1	4		2.2
	3)FDの充実	(1)「亥鼻IPE」のFT養成プログラム	「亥鼻IPE」のFT養成プログラムの実施	4	1		2.8
		(2)亥鼻IPEの安定的なFT確保の組織化	亥鼻IPEの安定的なFT確保のルール作り	3	2		2.6
実践・社会貢献	1)IPE研究拠点からの発信	IPEのFTやコンサルテーション、広報活動	①HPの充実	2	3		2.4
			②問い合わせに応じた情報発信	3	2		2.6
	2)IPWの促進	(1)大学病院のIPW改善	大学病院のIPW改善(プロジェクト研究Ⅱ)	3	2		2.6
		(2)千葉の地域包括ケアシステム構築	千葉市での地域活動	4	1		2.8
	3)政策提言	(1)制度化等要望書を作成、関係機関に提案	附属病院との連携	2	3		2.4
研究	IPE/IPWの理論化・体系化、専門職連携学の構築	研究プロジェクト・チームを複数設置し研究を企画・遂行。研究チームの組織化	(1)亥鼻IPE卒業生追跡調査の継続と成果発表		3	2	1.6
			(2)亥鼻IPE教育評価研究の継続と成果発表	1	4		2.2
			(3)IPEテキストの執筆・出版	1	4		2.2
			(4)①プロジェクト研究Ⅰ	3	2		2.6
			②ファシリテーター研究	2	3		2.4
			③教員の海外派遣	1	4		2.2
			(5)①プロジェクト研究Ⅱ(IPW)	4	1		2.8
			(6)研究発表と論文化	3	2		2.6
			(7)クリニカルIPE研究	3	2		2.6
組織運営	1)予算と人材確保	(1)外部資金を恒常的に獲得	外部資金を恒常的な獲得	2	3		2.4
		(2)リソースパーソンの組織化	リソースパーソンの組織化	4	1		2.8
	2)PCDAサイクルに基づく組織運営	PDCAサイクルをもとに実施し、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正	PDCAサイクルに基づく各種会議の開催	2	3		2.4
	3)IPERCの将来構想	外部評価をうける。	外部評価委員会の開催、事業報告書の作成	2	3		2.4

（１）教育について

① クリニカル IPE は、必修化していただきたい素晴らしい取り組みだと思います。

② ファシリテーター導入について、Step1～3 全てに FT 導入。継続も期待できる。

③ ターム制の検討について、全学で実行。更に継続努力あり。

④ テレビ会議システムの活用について、検討目標に対し実行まででされているが、効果はどうだったのか。

⑤ クリニカル IPE について、学生の感想から ICU でのクリニカルはハードルが高い印象が残った。

⑥ 海外との交流について、中期目標にはまだ距離を感じる。

⑦ 千葉県内の大学間連携について、参加学生が増えることを期待。学生と FT 共々の参加で理解の深まりが期待できる。

⑧ FT については、全ての過程で安定した導入の継続の為の努力がなされている。

⑨ ファシリテーターを医療関係者から導入することによって、亥鼻 IPE の教育効果を高めようとする考え方は高く評価されよう。養成プログラムや安定的確保のルールも施されていて、システムとして構築しようとする意図も理解できる。ただ、学生の学修成果にどのような効果を及ぼしたのか、その点に係る説明が欲しかった。

⑩ アンケート等を基にした次年度科目の精錬について、説明が不十分で次年度の改善に向けた施策が不明瞭であった。

⑪ クリニカル IPE は新たな IPE の展開であり、IPW との接続に期待する。

⑫ 千葉県内の他大学との連携により他専門職の学生との交流の機会の増すことが期待される。

（２）実践・社会貢献について

① 学外へのアプローチにも取り組まれていることに敬意を表します。今後も地域を巻き込んだ活動を。

② 広く社会に発信し、地域の要請を的確に把握してそれに応える取組を実施していることは高い評価に値する。また、政策提言を目標に掲げていることに大きな期待を持つ。特に、指定規則やコアカリがある中の IPE の位置づけを提言する上で本取組の成果をとても期待する。

③ 大学病院の IPW 改善について、具体的にテーマも決まり実行予定である。

④ 千葉市での地域活動について、住民側の熱意（相談内容）にどこまで対応。

⑤ 政策提言を目指した附属病院との連携について､活動しやすいこれからの関係づくりに期待。

⑥ 実践における研究としての、IPW のプロジェクト研究の成果が、IPE の今後のプログラムの発展に繋がっていくのか、期待・注視したい。

（３）研究について

① 追跡調査について、少数でも良いので聞き取り（インタビュー）し、記事等での発表をお願いしたいと思います。

② 現在はデータの収集が実施され、解析の段階と理解した。本分野の解析はまだ、国際スタンダードが確立していない中、難しい点を考えると成果発表に至っていないのも認められる。解析の成果に大きな期待を寄せるものである。一方、クリニカル IPE の実施は高い評価が与

えられるべきと考える。特に、学生のレポートではかなり具体的なものであり、取組の具現性の高いことが伺える。

③ 亥鼻 IPE 卒業生追跡調査および亥鼻 IPE 教育評価研究の継続と成果発表について、分析と成果発表を期待。

④ IPE テキストの執筆・出版について、亥鼻 IPE の実績は大きいと再認識した。

⑤ プロジェクト研究Ⅰについて、教育方法の違い等はある程度予測できそうな内容。

⑥ ファシリテーター研究について、FT 研修プログラムを実現して更に協力は体制を願う。

⑦ 教員の海外派遣について、実施したことで何がもたらされたか。

⑧ プロジェクト研究Ⅱについて、具体的テーマに基づいて進行している。

⑨ クリニカル IPE 研究について、これが進むと現実的な教育も共に進むと期待。

⑩ 現在のところ、クリニカル IPE は、個人による研究として行われているようだが、今後は組織的に展開させることは考えられているのか。また、教育プログラムに位置づけられるとすれば、どのような形が考えられるのか、大いに注目したい。専門職連携学の構築は、ビジョンにある大学院設置の前提となるのだろうが、それは医療経営といった分野に近いのか、それとも医療教育学とでも呼ぶべきものに近いのか、対象と方法が明示されなければならないのではないか。

⑪ 卒業時調査及び卒業生の追跡調査によって亥鼻 IPE の成果/改善点が明確になる、リーディング大学として率先して取り組むべき事項である。

（4）組織・運営について

① 外部資金獲得への積極的な取組を含めて、本事業は高い戦略性が評価される。一方、科学研究費での成果がないのが今後の課題と考える。また、PDCA サイクルの実施では、組織内の主担当など分担組織の構築がより効率的な事業展開をもたらすのではないかと考えた。

② PDCA サイクルに基づく各種会議の開催について、多様な会議の時間と参加者確保が優れている。

③ 外部評価委員会の開催について、個人的には評価できる分野は限られていて難しい。

④ 本センターの活動のビジョン性や組織性、計画性は非常に高いと判断される。ただ、各種会議の開催が PDCA サイクルに乗っているかどうかの説明がなされていないのではないか。

3. 外部評価委員の講評について

当センター開設1年目にして外部評価委員会を開催することができた。このことは、PDCAサイクルによってセンター運営を行う上で重要なことであった。5名の外部評価委員は、大学教育の専門家、IPEに精通しIPE国際センターを有している他大学の教員、県内大学の教員、県内行政官、亥鼻IPEの協力者という多方面からご参集いただいた。多角的に当センターの事業を評価していただき、当センターへの期待を述べていただいた。以下、外部評価委員の評価・コメントを踏まえ次年度の課題を述べる。

（1）教育について

2007年から実施している亥鼻IPEについて、おおむね高評価をいただいた、特に新しい試みである「クリニカルIPE」は5人全員から「A」の評価をいただいた。資格取得の学部教育では実習教育が最終段階であるので、クリニカルIPEへの期待は大きいことを痛感した。

一方、「アンケート等をもとに次年度の科目の精錬」を行うことについては、評価が分かれた。従来から継続していることであり、平成27年度についても、Step終業時に、学生アンケート、教員アンケートをとり、その集計をもとにStep運営会を開催して総括し、平成28年度の内容及び運営方法を検討してきた。本報告書の記述および外部評価委員会での説明が不足していたので、外部評価委員に十分伝えることができなかった。次年度の課題としたい。

新たなIPEプログラムの開発では、「県内他大学との連携」については高評価をいただき、今後の展開に対する期待のコメントもいただいた。一方、海外との交流では中期目標に至る課題の指摘をいただいた。

（2）実践・社会貢献について

当センターが行ってきた社会貢献活動について、おおむね高評価をいただいた。実践研究を通した教育改善及び政策提言への期待が述べられた。

（3）研究について

研究の取組については、クリニカルIPEやFT研究など新しい事業研究に対する期待が述べられた。一方、従来からデータ収集している「亥鼻IPE卒業生追跡調査研究」について厳しい評価をいただいた。亥鼻IPEの成果を明らかにすることは当センターが率先して取り組むべき課題であり、次年度の大きな課題である。平成28年度に開始した研究事業については、途中経過であり結果報告が十分できなかった。3月中にFT研究、地域志向教育研究経費事業、プロジェクト研究の報告書が完成するので、当報告書と共に外部評価委員にはお届けする。次年度以降、年度単位の研究事業として完結していきたい。

（4）組織運営について

当センターの予算や人材確保について高い評価をいただいたが、具体的な活動に対する役割分担や組織運営についてご指摘をいただいた。教員の担当制が不明確なところがあったので、次年度は計画の段階で明確にして取り組みたい。

Ⅵ. 資料

（資料１）IPERC 事業目標

	長期目標(2015～2019)	中期目標(2015～2017)	短期目標(2015)
教育	1)亥鼻IPEの発展・進化	(1)亥鼻IPEの改定、安定的実施	①Step1～3にFTの役割を明確化して導入する。 ②ターム制の3学部時間割にStep1～4を優先的に確保し、現在の運営方法を2016年度版に改定する。 ③テレビ会議システムの活用を検討する。 ④授業評価アンケートや教員アンケートをもとに、これまでの教育プログラムの課題を集約し、次年度の「亥鼻IPE」プログラムを検討する。
		(2)クリニカルIPEを実施する。	①クリニカルIPEの試行を、大学病院で実施する。
	2)新たなIPEプログラムの開発	(1)海外との交流	①レスター大学への学生短期留学および亥鼻IPEとの単位互換の可能性を探索する。 ②全学企画のマヒドン大学でのIPE学生短期留学の可能性を探索する。
		(2)千葉県内の大学間連携	千葉県内薬学系大学のコンソーシアムに協力する。
		(3)大学院IPEプログラム	IPEを取り入れた災害看護学の大学院教育に参加する。
		(4)他大学との連携	①他大学のIPEに協力する。 ②福祉系大学院のIPEに協力する。
	3)FDの充実	(1)「亥鼻IPE」のFT養成プログラム	Step1～3のFD/SDならびにFT研修を実施する。 ※FD…教員対象、SD…附属病院職員対象、FT研修…主に外部からの参加希望者を対象としたファシリテーター養成研修（教員や附属病院職員も参加しているため、FD/SDを兼ねる）
		(2)亥鼻IPEの安定的なFT確保の組織化	学内教員、大学病院スタッフによる亥鼻IPEへの参加ルール作りを行う。
実践・社会貢献	1)IPE研究拠点からの発信	IPEのFTやコンサルテーション、広報活動	①HPを充実させる。 ②他大学や海外からの問い合わせに応じて情報発信を行う。
	2)IPWの促進	(1)大学病院のIPW改善	大学病院や総合病院、地域医療等の職員への研修プログラムを作成し実施する。
		(2)千葉の地域包括ケアシステム構築	千葉県（千葉市）の地域連携の実際および、地域連携を担う専門職について情報収集を行う。
研究	IPE/IPWの理論化・体系化、専門職連携学の構築	研究プロジェクト・チームを複数設置し研究を企画・遂行。研究チームの組織化	①亥鼻IPE卒業生追跡調査の継続とデータ分析による成果発表を行う。 ②亥鼻IPEの教育評価研究を継続しデータ分析による成果発表を行う。 ③IPEテキスト（図書）を執筆し出版する。 ④IPEプロジェクト研究事業を立ち上げる。・IPE教育プログラムの収集・分析・蓄積。・IPEのFTコンピテンシーの明確化と研修プログラム開発研究 ⑤IPWプロジェクト研究事業を立ち上げる。・現場のIPWの実態（Good practice集積）と分析 ⑥研究発表と論文化
組織運営	1)予算と人材確保	(1)外部資金を恒常的に獲得	①国際交流事業助成金の獲得 ②学長裁量経費（教育事業）の獲得 ③科学研究費補助金の獲得 ④民間研究助成金の獲得
		(2)リソースパーソンの組織化	FT参加者の名簿を作成し、連絡方法をつくる。
	2)PCDAサイクルに基づく組織運営	PDCAサイクルをもとに実施し、必要があれば、年間計画や各種運営マニュアルを修正	①運営委員会の開催 ②教育実践研究部会の開催 ③亥鼻IPEStep1～4の各学部担当教員と連携して亥鼻IPEを運営する。
	3)IPERCの将来構想	外部評価をうける。	①各短期目標の実現を目指して組織的な活動を行い、その成果を明確にする。 ②センター紀要を発行する。

（資料２）学習のまとめ（別冊）

（資料３）亥鼻 IPE 数値実績

受講学生数（総計7,846名）

年次	Step1				Step2				Step3					Step4				合計
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他（他大生）	計	医学部	看護学部	薬学部	計	
2007~2010	415	335	328	1,078	302	249	243	794	199	163	93	-	455	95	89	41	225	2,552
2011	113	84	86	283	119	86	84	289	103	84	39	-	226	102	76	43	221	1,019
2012	117	85	88	290	115	80	87	282	119	83	37	-	239	101	85	38	224	1,035
2013	118	84	88	290	116	86	89	291	123	83	44	-	250	123	85	35	243	1,074
2014	119	84	83	286	117	83	87	287	120	81	50	-	251	124	81	49	254	1,078
2015	121	83	87	291	116	85	83	284	130	83	46	16	275	113	83	42	238	1,088

協力教員及び外部機関専門職 ※IPERC教員（過去のIPEワーキンググループ教員）を除く（総計588名）

年次	Step1（教員）				Step2（教員、外部機関専門職）					Step3（教員、外部機関専門職）					Step4（附属病院職員）										合計
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	外部機関	計	医学部	看護学部	薬学部	外部機関	計	医師	看護師	薬剤師	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士	心理カウンセラー	遺伝カウンセラー	管理栄養士	計	
2007~2010	31	44	37	112	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	10	3	3	3	2	6	1	1	4	45	157
2011	8	10	10	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	12	3	3	3	2	3	1	1	2	41	69
2012	8	11	9	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	7	3	2	3	1	4	1	1	4	36	64
2013	8	11	12	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	9	3	3	3	1	4	1	2	4	40	71
2014	8	12	13	33	-	-	-	-	-	0	1	0	40	41	10	9	3	3	3	1	4	1	1	4	39	113
2015	7	5	4	16	0	3	0	22	25	0	1	0	32	33	9	9	4	3	3	2	4	1	1	4	40	114

協力TA［大学院生］（総計197名）

年次	Step1				Step2				Step3					Step4				合計
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他	計	医学部	看護学部	薬学部	計	
2008~2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	3	1	2	1	4	19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	4	2	3	1	6	19

実習協力施設 ※附属病院を除く（総計436施設）

年次	Step1	Step2							合計
	病院	病院	診療所・クリニック	薬局	訪問看護ステーション	回復期リハビリテーション病棟	保健機関 介護福祉施設	計	
2007~2010	24	15	32	52	25	-	21	145	169
2011	6	5	11	15	11	-	8	50	56
2012	6	5	9	22	9	-	4	49	55
2013	6	6	12	21	6	-	3	48	54
2014	7	6	11	17	6	3	2	45	52
2015	6	6	11	15	5	4	3	44	50

FD/SDの参加者数（総計776名）

年次	Step1	Step2		Step3	Step4	その他	合計
		実習施設担当者	ファシリテーター				
2007~2010	88	44	-	-	28	105	265
2011	17	33	-	-	23	-	73
2012	17	31	-	-	17	-	65
2013	20	17	-	-	25	-	62
2014	31	15	-	61	25	-	132
2015	10	28	43	52	24	22	179

（資料４）平成 27 年度 試行事業報告 クリニカル IPE（小児科病棟・ICU 病棟）

小児科病棟・ICU 病棟共通

目的：

亥鼻 IPE の最終段階として、医学部と薬学部は５年生のクリニカル・クラークシップの一部として、看護学部は４年生の統合実習の一部として、３学部混成チームによるクリニカル IPE を実施し、臨床の場で実践可能な専門職連携実践力を育成する。

学習到達目標：

診療・ケアの現場において、３学部学生チームで受け持つ患者についての全人的に理解を深め、診療・ケア計画が立案でき、クリニカル IPE の終了時に学生は以下のことができる。

Ⅰ．チームの目標達成のための行動
患者の目標（チームの目標）達成のために、チーム状況を評価し、診療・ケアの現場の状況を把握して自己の実践を行うとともに、チームメンバーにフィードバックできる。

Ⅱ．チーム運営のスキル
チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいて、チームメンバー間で情報共有と意思決定をしながらチーム活動ができる。

Ⅲ．チームの凝集性を高める態度
チームメンバーおよび診療・ケアの場の多様な専門職と良好な人間関係を築き、患者中心の診療・ケアについて、建設的に話し合うことができる。

Ⅳ．患者を尊重した診療・ケアの提供
フィールドの受け持ち患者に適した診療・ケア計画を、患者の意思を尊重しながらチームで立案することができる。

Ⅴ．プロフェッショナルとしての態度・信念
チームで受け持つ患者の診療・ケア計画の立案について、専門職及び教員の支援を受けて取り組み、自分の課題を明確にできる。

Ⅵ．専門職としての役割遂行
自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を、学生の立場から実施・評価し、診療・ケアの場にフィードバックできる。

小児科病棟

【実習日程】

日にち：平成 27 年7月 14 日（火）・15 日（水）・１6日（木）　原則として８時～17 時

場所：　小児科病棟（みなみ棟３階、ひがし棟３階）

【参加学生】

医学部：小児科病棟でクリニカル・クラークシップ中の５年生２名

薬学部：クリニカル・クラークシップを終了した５年生１名

看護学部：統合実習で小児科病棟を希望した２名

３学部合計５名（２チーム）

Ａチーム：医学生１名、看護学生１名、薬学生１名

Ｂチーム：医学生１名、看護学生１名

ICU 病棟

【実習日程】

日にち：平成 27 年7月 14 日（火）・16 日（木）・１7日（金）　原則として８時～17 時 30 分

場所：　ICU 病棟（にし棟４階）

【参加学生】

医学部：ICU 病棟でクリニカル・クラークシップ中の５年生２名

薬学部：クリニカル・クラークシップを終了した５年生２名

看護学部：統合実習で成人看護学実習（ICU 病棟）を希望した２名

３学部合計６名（２チーム）

Ｃチーム：医学生１名、看護学生１名、薬学生１名

Ｄチーム：医学生１名、看護学生１名、薬学生１名

担当教職員（敬称略、順不同）

小児科病棟：菱木はるか、若菜幸子

ＩＣＵ病棟：織田成人、立石順久、竹内純子

医学部：朝比奈真由美、伊藤彰一

薬学部：関根祐子

看護学部：酒井郁子、眞嶋朋子、佐藤奈保、池崎澄江

専門職連携教育研究センター：大塚眞理子

学生の日誌から　　小児科病棟

医学部生

最終日も、これまでと同様に朝のカンファ前に学生のみで患児回診を行い、母親からの話や現在の状態・変化などを理解し、少し話し合いをしてからカンファに臨むという流れで開始した。講義などもあった事に加え、患児の人見知りが激しい事などもあり頻繁に会いに行くという事が難しかったが、医学部としては患児とコミュニケーションをとりながら手掌紅斑や眼球結膜の様子などを観察する事が出来、看護学部学生としては患児が好きなキャラクターのカードを作り一緒に遊ぶという事を行っていた。また、薬学部学生は医師の許可のもと、母親に薬剤の説明を行うなど、我々としてはある程度挑戦的な事も出来たと感じる。

これらの体験を踏まえて、最後のプレゼンにのぞみ、先生方の協力もあり、今回の IPE で学んだ事、感じた事などを自分の中でも、チームの中でも共有する事が出来たと感じる。薬剤部に訪問したり、看護実習に混ざるなどより革新的な内容を今後行うとより新しい視点が各学部の学生に備わると感じる。

薬学部

IPE では、他学部の視点を学ぶことも大切であるが、私たち薬学の視点や薬剤師の存在を積極的にアピールしていく場であるとも考えている。私は今回の IPE の中で、アスピリンがなぜ解熱鎮痛作用と抗血小板作用の二つの作用があるのか、副作用として胃腸障害がなぜ起こるのかを作用機序をもとに説明した。また、最後の振り返りの時間では、薬剤師が病棟活動をおこなっていること、それによって医師や看護師の負担が軽減していること、インシデントが減少していることなどを紹介することができた。医学生や看護学生には、将来医療現場で働くようになったときにはぜひ薬剤師を活用してもらえたらと思う。IPE のような教育が広まり、将来的にそのような教育を受けた学生が医療職者となって薬剤師の役割を理解した人たちが増えていってくれることを願っている。そのためにはとても大切な教育プログラムであると感じている。

私はちょうど病院実習を終えて病院薬剤師の基本的な業務や役割を理解した上で参加することができたのでより有意義な実習にすることができたと感じている。各学部の実習時期の折り合いをつけるのはとても難しいとは思うが、ぜひ病院実習を経験した学生を対象に今後も続けていただきたいと思う。

看護学部

私は今回のこの IPE 実習を通して、医学部・薬学部・看護学部の 1 チームで、1 人の患児さんを受け持ったことで、それぞれの専門的な知識を持ち寄って、患児に対する医療・看護を考えることが出来たと思う。医学部であれば、疾患や治療に関する高度な知識を持っていて、より患者特性を理解することが出来たし、薬学部であれば、薬の機序や内服薬の調整の仕方など具体的に知っていて、それを患児さんのケアに活かしたりすることが出来た。看護学部としての視点としては、家族も看護の対象として情報を集めたり、患児さんとのコミュニケーションの取り方を工夫してみたりなど、それぞれの専門性を発揮して、患児さんとの関わりに繋げることが出来たのではないかと思う。

それぞれお互いに異なった視点や知識を持っていても、情報共有しなければ、医療や看護に活かすこと

は出来ないので、互いの知識や考えた事、思っていることを共有する時間を設けることが、非常に大切だと学んだ。実習の中でも、積極的に情報共有の場を設けるようにして、日々患児さんの状況をチームで確認し合ったり、問題点や解決策などを話し合ったりして、そのことで、チームとして同じ共通認識を持って、同じ方向性で患児さんと関わっていくことが出来た。

また、3 学部で協働して実習を行うことで、今まで自分が持っていなかった視点や考え方に気付くことが出来、沢山の発見もあった。そのそれぞれの視点に触れることで、自分の中にも新たな視点として吸収することができたし、その視点を持って、患児さんとの関わりの中に活かすことが出来た。今後も、今回の実習で得た発見や視点を自身の看護の中にも活かしていけるように、大事にしていこうと思った。

学生の日誌から　　ICU 病棟

医学部

全体を通して、チームの目標として掲げた、ICU での迅速な連携という点にほとんどアプローチできずに残念に思っている。ICU なのだから急変もあるし、危機を脱すればすぐに退室するという CC であれば当然のスピード感に IPE では追いついていなかったように思う。短期の目標を十分に話し合う前に、実際の症例はその目標を達成してしまった。十分に話し合う形の連携は step4 までにやってきたことで、わざわざ病棟でやるのならば、病棟に即したスピードということをもっと重視すればよかったと感じている。

薬学部

診療・ケアの様子を見学させていただいたのだが、終始自分の無力さを感じた。まず、患者さんの体位変換の際にお手伝いをすることとなったのだが、医学部・看護学部メンバーは積極的に患者さんを支えるなどの補助を行えていたのだが、これまでに患者さんに触れるような経験をしたことがない私は、全く手が出せず、固まってしまった。授業でも実習でも患者さんとの身体的な接し方についてこれまで学んだことがなかったためどうした良いかわからなかった。薬剤師が患者に直に触れる機会は少ないから仕方ないかもしれないが、医療人になる以上は患者への触れ方くらい学習・実習する機会があってもいいのではないだろうか。また、その後担当患者さん二名が急変し、一時心停止にまで陥ってしまうという事態となったため、非常に緊迫感のある救急処置の様子を見せていただくことができ非常に貴重な経験となった。このような状況では各種薬剤が代わる代わる投与されていくのだと知ることができたが、緊急状態において薬剤師として職能発揮することはできるのだろうか、患者への触れ方もままならない薬学出身者に出る幕はあるのだろうかと感じてしまった。しかし、その後の先生方とのディスカッションの中で、アメリカでは救急の薬剤師が急変時に救急カートから薬剤を取り出して活躍しているという話を聞くことができ、薬剤師もスキルを身につければ活躍の余地はあるのだと学ぶことができた。そしてさらに、何も急変時の対応だけが仕事ではなく、急に薬剤を投与する際のラインの取り方や配合変化のリスクなど急変患者に対しても薬剤師として貢献できることは山ほどあるのだと学んだ。

看護学部

３日間のＩＰＥを通して、これまでの実習とは違ういろんな学びを得ることができた。医学生・薬学生とチームを組んで 1 人の患者さんについて考える過程で、これまで看護師など看護チームの中で多くの実習を行ってきたのに対して、今回は医学生について医師のカンファレンスやラウンドに一緒に入らせてもらい、看護とは異なる視点を得ることができた。医師がどんなところに注目してどんな情報から治療方針を決めているのか、そのために看護師にどんなことを求めているのかなどに気付くことが出来た。また、これまでの実習では薬剤のことなどはあまり深く考えていなかったが、薬学生と一緒に考える中で、薬学の立場から注目している視点などを知ることが出来た。また、患者に対する看護計画をたててそれをチームで共有したことで医学生と薬学生にも看護がどんなことしているかや看護が大切にしている点を知ってもらうことができた。チームで患者さんの計画について考えていくと、同じ問題を挙げていても、それぞれにアプローチの仕方や目標とするところが異なっていたりすることに気付き、それぞれの立場から専門性を活かしてアプローチし、それをそれぞれに共有することでチームとしてうまく協働できると感じた。また、ＩＣＵでは特に命に関わる重傷な患者を対象としているため、治療を最優先に医療活動が行われるが、そのような状況だからこそ、看護としては患者の心理面や家族のケア、患者の安楽や今後のことを見据えたケアなど、医師や薬剤師が介入できない部分で専門性を発揮することができると思う。看護師は 1 番患者の近くで多くの時間関わっているからこそ、得られる情報がたくさんあり、医師や薬剤師が求めている情報を把握して、それを共有することで、それぞれに異なる専門性をうまく発揮し合って患者により良い医療が提供できると感じた。3 日間という期間だったがこれまでのＩＰＥで学んできたことから、さらに実際の臨床の場での専門職連携について学びを深めることができとても良い学びを得ることができた。

	依頼内容の種類	依頼主	研修タイトル		日にち	時間帯	場所	IPERC特任・兼務教員
H26年度	講義（講師派遣）：他大学	金沢医科大学　医学教育研究学	医学教育教員向けのFDを実施依頼	金沢医科大学で医学教育教員向けのFDを実施 学習成果基盤型教育のアウトカムを達成するための教育カリキュラムとしてのプロフェッショナリズムおよびIPE教育カリキュラムの紹介	2015.3.7（土）			朝比奈真由美
1	講義（講師派遣）：他大学	札幌医科大学医学部（医療人育成センター教育開発研究部門）	地域医療合同セミナー1（医学科保健学科1年生）	チーム医療の実際 各職種の視点について学ぶ	2015.4.21（月）	14:50-16:20	札幌医科大学医学部講堂	大塚眞理子
2	講義（講師派遣）：他大学	神奈川県立保健福祉大学　実践教育センター	多職種連携推進課程	専門職連携の現状と課題	2015.04.25（土）	13：15～16：30	保健福祉大学実践教育センター	大塚眞理子
3	講義（講師派遣）：他大学	新潟県立看護大学大学院	大学院特別セミナー	専門職連携実践を推進する看護職とその育成	2015.9.19（土）	13：00～14：20	新潟県立看護大学	大塚眞理子
4	講義（講師派遣）：他大学	金沢医科大学　医学教育研究学	教員向けのFDを実施依頼	金沢医科大学で教員向けのFDを実施 学習成果基盤型教育のアウトカムを達成するための教育カリキュラムとしてのプロフェッショナリズムおよびIPE教育カリキュラムの紹介	2015.6.12（金）			朝比奈真由美
5	講義（講師派遣）：他大学	佛教大学総合研究所	共同研究プロジェクト「共生（ともいき）の理念に基づいた保健医療福祉専門職のためのIPEプログラムの開発と評価」（研究代表 日隈ふみ子保健医療技術学部教授）による研修会	日本の大学教育における専門職連携教育の現状と導入方法	2015.9.9（水）	15：30～17：00	佛教大学二条キャンパス	大塚眞理子
6	講義（講師派遣）：他大学	宮崎大学医学部	医学部医学科と看護学科の合同FD	保健医療福祉系大学における IPEの導入と実際	2016.1.22（金）	17：00～19：00	宮崎大学医学部	大塚眞理子
	依頼内容の種類	依頼主	相談内容	対応	日にち	時間帯	場所	IPERC特任・兼務教員
7	コンサルテーション（カリキュラムに関する相談）	A大学	A大学大学院のIPE関連科目の授業内容について	資料提供	2015.4.8（水）	11：00～12：00	IPERC	大塚眞理子
8	コンサルテーション（カリキュラムに関する相談）	B大学	IPWに関する教育課程のカリキュラムについて	授業内容についてのアドバイス	2015.7.30（木）	15：30～16：30	IPERC	大塚眞理子
9	コンサルテーション（授業視察）	大阪薬科大学	IPEStep4の見学依頼	Step4の見学対応	2015.9.17（木）・18（金）	17（木）12：30～16：30 18（金）10：00～16：30	千葉大学CCSC	酒井郁子
10	コンサルテーション（授業視察）	金沢医科大学　医学教育研究学	IPEStep4の見学依頼	Step4の見学対応	2015.9.28（月）～30（水）		千葉大学CCSC	朝比奈真由美
11	コンサルテーション（授業視察）	日本大学	IPEStep3の見学依頼	Step3の見学対応および授業後のデブリーフィング	2015.12.22（火）・24（木）	両日8：50～16：00	千葉大学亥鼻キャンパス（看護学部棟、医学部棟）	酒井郁子，大塚眞理子，朝比奈真由美
12	コンサルテーション（授業視察）	佛教大学	IPEStep3の見学依頼	Step3の見学対応および授業後のデブリーフィング	2015.12.22（火）・24（木）	両日8：50～16：00	千葉大学亥鼻キャンパス（看護学部棟、医学部棟）	酒井郁子，大塚眞理子，朝比奈真由美
13	コンサルテーション（授業視察）	関西学院大学	IPEStep3の見学依頼	Step3の見学対応および授業後のデブリーフィング	2015.12.22（火）・24（木）	両日8：50～16：00	千葉大学亥鼻キャンパス（看護学部棟、医学部棟）	酒井郁子，大塚眞理子，朝比奈真由美
14	コンサルテーション（授業視察）	埼玉県立大学	IPEStep3の見学依頼	Step3の見学対応および授業後のデブリーフィング	2015.12.22（火）・24（木）	両日8：50～16：00	千葉大学亥鼻キャンパス（看護学部棟、医学部棟）	酒井郁子，大塚眞理子，朝比奈真由美
15	コンサルテーション（その他の相談）	長崎大学	「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」について	IPE・IPWに関するアドバイスを行った	2015.12.25（金）	18：00～20：00	長崎大学薬学部1階会議室	酒井郁子，石井伊都子（センター運営委員）

福祉系大学院への協力

	依頼内容の種類	依頼主	研修タイトル		日にち	時間帯	場所	IPERC特任・兼務教員
1	講義(講師派遣):他大学	日本社会事業大学専門職大学院	ソーシャルワーク5	専門職連携実践論	2015.7.3・10・17・24(金)	18:30～21:40	日本社会事業大学文京キャンパス	大塚眞理子

他機関(大学以外)への協力

	依頼内容の種類	依頼主	研修タイトル		日にち	時間帯	場所	IPERC特任・兼務教員
1	講義(講師派遣):大学以外の他機関	埼玉協同病院	IPW中堅研修	専門職連携実践論	2015.6.6(土)	8:30～17:00	埼玉県立大学	大塚眞理子
2	講義(講師派遣):大学以外の他機関	第29回日本老年学会総会・合同大会	合同シンポジウム2　老年医学教育:多職種連携	専門職連携教育が目指している高齢者ケアを担う専門職の姿ー看護職が加わるチームではー	2015.6.12(金)	15:00～17:00	パシフィコ横浜	大塚眞理子
3	講義(講師派遣):大学以外の他機関	第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	学会ジョイントプログラム3	「プライマリ・ケアで専門職連携を行うための基本的スキルは何か」	2015.06.14(日)	9:40～12:00	つくば国際会議場	大塚眞理子
4	講義(講師派遣):大学以外の他機関	公益社団法人日本看護協会看護研修学校	認定看護師教育課程認知症看護学科授業	「認知症看護援助方法論Ⅲ ケアマネジメント」	2015.07.03(金)	13:30～16:40	公益法人日本看護協会看護研修学校	大塚眞理子
5	講義(講師派遣):大学以外の他機関	神奈川県立保健福祉大学	認定看護管理者教育課程サードレベル	専門職連携の理念と実践	2015.08.15(土)	13:15～16:30	保健福祉大学実践教育センター	大塚眞理子
6	講義(講師派遣):大学以外の他機関	回復期リハビリテーション病棟協会	回復期セラピストマネジャーコース　第6期(東京)	「専門職連携とチーム(多職種協働論)」	2015.09.10(木)	10:40～12:10	三田NNホール(東京)	酒井郁子
7	講義(講師派遣):大学以外の他機関	公益社団法人神奈川県看護協会	介護保険施設等看護研修	「利用者の尊厳ある生活を支えるケアと看護① 介護施設における多職種協働による看取りケアの推進」	2015.10.20(火)	9:30～12:30	神奈川県総合医療会館	大塚眞理子
8	講義(講師派遣):大学以外の他機関	認知症看護認定看護師会(DCN-S:Dementia certified nursing-society)	認知症看護認定看護師研修	認知症看護におけるチームアプローチ IPE/IPWの視点から	2015.11.15(日)	10:00～16:00	公益法人日本看護協会神戸研修センター	大塚眞理子
9	講義(講師派遣):大学以外の他機関	公益社団法人日本看護協会看護研修学校	「特定行為研修」共通科目授業	「特定行為実践」講義	2015.12.09(水)	9:00～10:00	公益法人日本看護協会看護研修学校	大塚眞理子
10	講義(講師派遣):大学以外の他機関	公益社団法人日本看護協会看護研修学校	「特定行為研修」共通科目授業	「特定行為実践」演習	2015.12.09(水)	10:00～11:00	公益法人日本看護協会看護研修学校	大塚眞理子
11	講義(講師派遣):大学以外の他機関	北信もの忘れ支援ネットワーク	北信もの忘れ支援ネットワーク 研修会	認知症の人のケアに携わる私達の連携・協働そして統合へ	2016.1.30(土)	13:00～16:00	飯綱町公民館	大塚眞理子
12	講義(講師派遣):大学以外の他機関	チーム医療推進協議会	平成27年度第2回勉強会	IPE/IPWにおけるコンピテンシーの重要性と課題	2016.1.311(日)	13:00～16:00	公益社団法人日本理学療法士協会田町カンファレンスルーム	大塚眞理子
	依頼内容の種類	依頼主	相談内容	対応	日にち	時間帯	場所	IPERC特任・兼務教員
13	コンサルテーション(その他の相談)	C株式会社	・地域連携の方法について ・病院や施設の看護管理者が地域連携に参加する仕組みづくりについて	地域包括ケアシステム構築と多職種研修を紹介	2015.6.15(月)	14:00～15:00	IPERC	大塚眞理子

千葉大学内への協力

	依頼内容の種類	依頼主	研修タイトル	内容	日にち	時間帯	場所	IPERC特任・兼務教員
1	講義（講師派遣）：学内	東葛高校			2015.7.9（木）	9:00～11:00		
2	講義（講師派遣）：学内	千葉大学看護学部・大学院看護学研究科	オープンキャンパス模擬講義	亥鼻IPEって何だろう？	2015.8.4(火)	10:50～11:30	医学部記念講堂	大塚眞理子
3	講義（講師派遣）：学内	千葉大学看護学部・大学院看護学研究科	平成17年度　千葉大学看護学部公開講座（専門職向け講座）	看護とエビデンス・なぜそれが必要か？―多職種との連携に活かそう―	2015.10.18	13:30～15:30	千葉大学看護学部第2講義室	大塚眞理子
4	その他	千葉大学看護学部・大学院看護学研究科（災害看護グローバルリーダー養成プログラム）	災害時専門職連携演習（災害時IP演習）	演習への参加、受講生のパフォーマンス評価	2016.2.15～2.17	9:00～17:00	千葉大学看護学部北棟1階112講義室	酒井郁子、大塚眞理子、山田響子、藤沼康樹、黒河内仙奈

学会等への協力

	発信方法		発表形式	内容	日にち	時間帯	場所	IPERC特任・兼務教員
1	学会	第29回日本老年学会総会・第57回老年医学会学術集会	シンポジウム	専門職連携教育が目指している高齢者ケアを担う専門職の姿ー看護職が加わるチームではー	2015.6.12（金）	15:00～17:00	パシフィコ横浜	大塚眞理子
2	学会	第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会	シンポジウム	専門職連携を行うための基本的スキルは何か「地域で働く看護職が有する プライマリ・ケアの協調性」	2015..6.14（日）	9:40～12:00	筑波国際会議場	大塚眞理子
3	学会	第7回日本保健医療福祉連携教育学会ワークショップ「IPEのための専門職連携に必要なコンピテンシスを考える」	ワークショップ	IPEのための専門職連携に必要なコンピテンシスを考える	2015.8.9（日）	13:30～15:00	首都大学東京（荒川キャンパス）	大塚眞理子、酒井郁子
4	学会	千葉看護学会第21回学術集会	交流集会	看護教育と専門職連携教育－他分野の専門職教育者との交流を通して－	2015.9.12（土）	14:20～15:15	千葉大学看護学部セミナー1	大塚眞理子，山田響子，藤沼康樹，酒井郁子，朝比奈真由美
5	学会	日本オペレーションズ・リサーチ学会第16回安全・安心・強靭な社会とOR研究部会	講演	災害時専門職連携演習の 概要と課題	2015.11.30（月）	15:00～18:00	政策研究大学院大学	酒井郁子
6	学会	日本リハビリテーション連携科学学会第17回大会	シンポジウム	「連携教育の現状と課題－リハビリテーションを担う職種を育てるIPE」	2016.3.20（日）	13:00～14:30	国際医療福祉大学（大田原キャンパス）	大塚眞理子（座長）、酒井郁子（シンポジスト）
7	学会	日本学学会136年会	シンポジウム	『徹底討論！多職連携教育（IPE）は薬学教育に何をもたらすのか』医療職種教育に及ぼすIPEの影響と薬剤師に期待すること-看護師の視点から-	2016.3.27（日）	9:00～11:00	パシフィコ横浜	酒井郁子

（資料６）地域志向教育研究経費事業点検・評価書

（１）採択課題（代表者）

採択課題名：地域住民と専門職及び学生の連携協働による支え合い地域づくり

代表者名：酒井郁子

（２）現状の説明

千葉市中央区東千葉で行われている住民主体の地域活動に研究者が参加し「地域の和輪環の会」を立ち上げ、学生の教育研究フィールドとなるよう信頼関係を構築した。住民が作成した地域づくりの企画書には「若者世代との交流」が計画されている。

（３）点検・評価

１）優れた事項

地域住民と千葉大の研究者及び千葉市地域包括ケア推進課の職員がパートナシップを組み、住民主体を尊重したことが優れた点である。地域懇談会を４回開催し、毎回 50 名程度の住民が参加し、地域づくりの企画書を作成することができた。

２）改善すべき事項

地域住民のニーズは保健医療の問題だけではなく、相続や空き家問題など多義に及んでいる。現在この地域に関わっている研究者は看護学部と医学部の研究者である。住民の要望に応じて多方面の専門家の協力が必要になる可能性がある。

（４）将来に向けた発展方策

この地域は 10 年以上前から住民主体の地域活動を行っている。住民の高齢化に伴い専門家や学生との協働が必要になっている。住民のニーズと学生のニーズがマッチングするよう関係調整を行うことが必要である。

（５）地域志向教育研究経費事業についての意見等

住民のニーズに応じて学生の地域活動を展開する場合に、学生との接点が研究者の所属する学部生に限定されがちである。地域志向教育を学生に広報する窓口が必要と考える。

（６）地域向けの公開講座・セミナー等

（事業名）	①地域の和輪環の会スタート講座	②地域の和輪環の会住民フォーラム
（日時）	平成 27 年 9 月 27 日（土）	平成 28 年 2 月 28 日（日）
（会場）	東千葉住宅地集会所	国立千葉医療センター
（開催者）	地域の和輪環の会	地域の和輪環の会
（参加人数）	76 名	129 名

（７）その他の事業

①住民の意識調査、②コアメンバー及び専門職へのインタビュー調査

③住民懇談会の実施 5 回

（資料７）プロジェクト研究共同研究員募集要項

平成２７年度千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
プロジェクト研究共同研究員募集要項

１．目　的

個人又は複数の共同研究員と千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター教員が研究プロジェクトを形成し、専門職連携学を追及する教育分野および実践分野に関する調査研究を行なう。

２．募集する研究プロジェクト名　　別紙１のとおり

３．研究期間　　平成２７年９月１日から平成２８年３月３１日

本プロジェクト研究は年度ごとに募集し実施するものであり、次年度以降の継続応募も可能である。

４．募集定員　　各１０名程度

５．応募資格

大学の教員で専門職連携教育および実践に関心があり、プロジェクト研究の課題に主体的に取り組むことのできる方

保健医療福祉分野に関わる専門職で、専門職連携実践および教育に関心があり、プロジェクト研究の課題に主体的に取り組むことができる方

千葉大学大学院看護学研究科・医学研究院・薬学研究院・医学部附属病院の教職員

６．応募方法

学外者は応募申込書（別紙２）を下記に提出すること。

千葉大学大学院看護学研究科・医学研究院・薬学研究院・医学部附属病院の教職員は、プロジェクト名と氏名を下記に提出すること。

提出先　〒２６０－８６７２　千葉市中央区亥鼻１－８－１

千葉大学看護学部（センター事業支援係）

提出期限　**平成２７年７月 17 日（金）必着のこと。**

※　実施要項及び応募申込書（別紙２）については、千葉大学看護学部ホームページ、附属専門職連携教育研究センターホームページに掲載しております。

７．採否通知

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センターで採否を決定した後、本人宛に通知する。

８．研究経費

研究実施に要する交通費は自己負担とする。

（今後、科研など研究助成金の申請をプロジェクト研究参加者とともに行う予定である。）

９．研究終了の報告

研究終了後、研究代表者はプロジェクト研究実施報告を平成 27 年 3 月末までに、専門職連携教育研究センター長に提出するものとする。

問い合わせ先

本研究に関する問い合わせ先は、下記のとおり。

〒２６０－８６７２　千葉市中央区亥鼻１－８－１

千葉大学看護学部（センター事業支援係）　腕木・久保田

（資料８）平成 27 年度研究業績

IPE/IPW 関連 業績目録 2015 年より

学会発表抄録

1. 大塚眞理子 : 専門職連携教育が目指している高齢者ケアを担う専門職の姿－看護玉が加わるチームではー. 第 29 回日本老年学会総会合同大会，16，2015.
2. 國澤尚子，大塚眞理子，丸山優，畔上光代，須賀夏子，山岸紀子 : IPW コンピテンシー尺度開発（４）対象者の変化の測定．第８回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会，51，2015.
3. 木戸宜子，鶴岡浩樹，畔上光代，大塚眞理子 : 認知症高齢者の長期療養を支える IPW に向けた取り組みと課題－地域支援関係者への聞き取り調査から. 第８回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 52, 2015.
4. 大塚眞理子，池崎澄江，山田響子，酒井郁子，長坂育代，黒河内仙奈，山本武志，渡邉美和，増島麻里子，大塚知子，眞嶋朋子 : 大学病院の医師と看護師以外の多職種における専門職連携実践力の特徴－CICS29 の比較から．第 8 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会，33，2015.
5. 渡邉美和，増島麻里子，眞嶋朋子，池崎澄江，黒河内仙奈，大塚眞理子，山田響子，長坂育代，大塚知子，酒井郁子 : 大学病院の看護師長が認識している多職種連携実践上の課題．千葉看護学会第 21 回学術集会講演集，37，2015.
6. 酒井郁子，池崎澄江，長坂育代，黒河内仙奈，大塚眞理子，渡邉美和，増島麻里子，大塚知子，眞嶋朋子 : 大学病院における専門職連携実践に関する研究　第 1 報　看護師・医師の専門職連携実践自己評価の部署間比較．第 35 回日本看護科学学会学術集会講演集，707，2015.
7. 長坂育代，黒河内仙奈，池崎澄江，増島麻里子，渡邉美和，酒井郁子，大塚眞理子，大塚知子，眞嶋朋子 : 大学病院における専門職連携実践に関する研究　第 2 報　看護師の専門職連携実践の評価と職務満足度との関連．第 35 回日本看護科学学会学術集会講演集，708，2015.
8. 柴崎智美，米岡裕美，高橋幸子，宮崎孝，森茂久，椎橋実智男，田口孝行，細田治，勝木祐仁，大塚眞理子，荒木信夫，別所正美 : 地域基盤型専門職連携教育の社会医学的な意義．第 47 回日本医学教育学会大会予稿集，142，2015.
9. 下井俊典，大塚眞理子，酒井郁子，春田淳志，神山裕美，畔上光代，小林毅，藤林慶子 : IPE/IPW のための専門職連携コンピテンスを考える（第３回）. 第 8 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 13, 2015.
10. Tomoko Majima, Sumie Ikezaki, Ikuko Sakai, Ikuyo Nagasaka, Shuichi Yamamoto, Mariko Masujima, Kana Kurokochi: Association between communication, competency for interprofessional collaborative practice, and team performance in Japan. AMEE2015 － An International Association for Medical Education, 504, 2015.
11. 大塚眞理子，酒井郁子，藤沼康樹，朝比奈真由美，山田響子，下井俊典，小林毅，畔上光代 : 看護教育と専門職連携教育－他分野の専門職教育者との交流を通してー．千葉看護学会第 21 回学術集会講演集，54，2015.
12. .
13. 山田響子，大塚眞理子，酒井郁子，藤沼康樹，黒河内仙奈，池崎澄江，眞嶋朋子 : 亥鼻 IPE　Step2 のチームづくりに必要なファシリテーターの知識とスキル　―ファシリテーター事前研修の充実に向けて―. 千

葉看護学会第 21 回学術集会講演集，41，2015.

13. Tomoko Majima, Takeshi Yamamoto, Sumie Ikezaki, Ikuyo Nagasaka, Kana Kurokochi, Mariko Otsuka, Kyoko Yamada, Miwa Watanabe, Tomoko Otsuka, Ikuko Sakai: Comparison of Competency for Interprofessional Collaborative Practice and Job Satisfaction among Medical Professionals in Intensive Care Units and Operation Rooms at Two University Hospitals in Japan, 19th EAFONS East Asian Forum of Nursing Scholars in Chiba,Japan, ,826,2016

単行書

14. 大塚眞理子，酒井郁子，相馬仁，下井俊典，神山裕美，小林毅，春田淳志，畔上光代，藤林慶子：JAIPE IPE 推進委員会の活動と展望．保健医療福祉連携，8(1），27-29，2015.
15. 大塚眞理子：専門職の連携協働による家族支援，矢吹知之編：認知症の人の家族支援　介護支援に携わる人へ．134－153，ワールドプランニング社，2015.
16. 大塚眞理子：リハビリテーション看護に必要なチームアプローチ．酒井郁子，金城利雄編：リハビリテーション看護　改訂第２版，12－19，南江堂，2015.
17. 酒井郁子：専門職連携教育と看護教育　新しい酒は、新しい革袋に盛れ．週刊医学界新聞，医学書院，3135 号，2015.
18. 酒井郁子：巻頭言　IPE 的な IPE．保健医療福祉連携，8(2），105，2015.

講演・シンポジウム

19. 酒井郁子：専門職連携教育研究センターの成り立ちとミッション．千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター開設記念シンポジウム報告集，5-12，2015．（講演 2015.3.16）
20. 大塚眞理子：日本の卒前教育における専門職連携教育の経緯と展望．千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター開設記念シンポジウム報告集，25-32，2015．（講演 2015.3.16）
21. 藤沼康樹：Multimorbidity 時代における Continuing Interprofessional Education 実践研究の展望．33-44，2015．（講演 2015.3.16）

総説・短報・実践報告・資料・その他

22. 酒井郁子，大塚真理子，藤沼康樹，山田響子，宮古紀宏：IPE の達成とこれから 「地域で学ぶ」を中心に専門職連携コンピテンシーの確立 ：千葉大学亥鼻 IPE の展開から．看護教育 56（2），112－115，2015
23. 下井俊典，大塚眞理子，酒井郁子，春田淳志，相馬仁，神山裕美，畔上光代：ワールドカフェ IPE/IPW のための専門職連携コンピテンスを考える．保健医療福祉連携，8（1），88－89，2015.
24. 酒井郁子，大塚眞理子，藤沼康樹，山田響子，宮古紀宏：専門職連携コンピテンシーの確立 千葉大学亥鼻 IPE の展開から．56（2），看護教育，2015.
25. 大塚眞理子：本邦における専門職連携教育（IPE）の研究動向と研究機関の設置，医療ジャーナル．51（12），87－93，2015.

IPERC　ロゴマークの由来

IPERCのロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の３つの学部からはじまった亥鼻IPEのうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成されました。

文部科学省　国立大学改革強化促進補助金
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
平成 27 年度　事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
編集者：酒井郁子、大塚眞理子、藤沼康樹、黒河内仙奈、山田響子、吉岡智子、
高野佳奈
発行日：平成 28（2016）年 3 月
〒260-8672　千葉市中央区亥鼻 1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
E-mail：inohana-ipe@office.chiba-u.jp

※ 本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めてくださいますよう、お願いいたします。